

いなほ

第75号

2018年4月20日

NPO 法人 萌

代表 波多江 伯夫

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所

工房 いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

遠く長い地道な支援

実習先の会社にあいさつに行く。彼は社員さんと一緒に働いていた。彼のまじめな態度が伝わってくる。職場体験実習はあと1週間で終わる。彼と関わって10年となる。彼がいつか企業で働くことになるとは思いつくことはなかった。バカにされることが嫌いで、すぐにムキになって利用者とけんかしていた。暴れることもよくあった。ただし向上心は人一倍あり、不器用な彼は、所長から一からパレットの作り方を教わり、一つ一つクリアして至った。負けず嫌いの性格は変わらないが、トラブルは激減した。体を壊してパレットは打っていない所長の存在は彼にとっては師匠でいまでも慕っている。家族もまさかうちの子がと驚いている。一年前からこの企業に施設外就労として働きに行っていた。彼にとっては新しい環境ではなく慣れ親しんだ職場であった。ジョブコーチの資格を持った職員の地道な活動の成果である。

「ここで働きたい」と笑みを浮かべて話す A さん。もう少しで実習が終わる。企業側も乗り気だ。実習経験はこれで2回目。一回目は職場環境が合わず、次の実習先を希望していたが、見つからずようやくいまの会社を探した。実習前半は職員が付き添って一緒に作業した。仕事の流れから職務分析を行い、課題となる分析を行って解決方法を見つけるという支援を行った。ひとりひとり課題が違うので、A さんの課題にそって解決する。彼にとっては曖昧な指示は苦手なので、職場環境と指示系列の明確化であった。A さんの支援は3年目である。生活支援から始まって、約束通り3年目で企業の就職が決まりそうである。

就職が決まったから支援は終わりではない。これから始まる。定着し、長く勤める支援である。それと同時に生活も職業生活の支援として継続していかなくてはならない。就労支援の基本のフレームワークはあるが、その人その人に応じた支援が必要だ。教科書通りにいかないのは当たり前で、法則のない原則があるだけである。僕たちにとっての原則とは何か。仕事と生活を一体的に支援することで、関わるという絶対的な時間の量である。そして5年後あるべき姿を描くことである。その人が歩いてきたストーリーを再構築していくことから始まるが、地道な作業である。



夢をかなえて就職しました



今年の目標は就職でした。1年の施設外就労をへて、施設外就労先のパレット会社に就職がきました。工房いなほの利用10年目にかなえた夢です。おめでとう！



4年前 A 型だったいなほを利用。就職したがうまくいかず、引きこもった生活を送っていました。その間私と電話での関係があり、二年前 B 型のいなほに通い始めました。工房いなほから消えてなくなりたいとずっとしていました。そこに彼の強みがあったのです。10年彼を支援していた前支援者から、若いから就職につなげてほしいと引継ぎされました。その思いによりやく応えられました。



春***農業が開始されました。眠っていた畑を耕します。竹林では筍が育っていました。例年より早くそだっていました。***竹から竹灯籠を作り始めています。ネット販売にのりだすかも？



計画相談事業所 ふかやから・・・

地域で生きづらさを感じながら福祉サービスに繋がっていない障害者の方の生きづらさをなくすのが、私たちの仕事の一つです。藤沢市のメンタルクリニックのケースワーカーから、ある母親と息子を紹介されました。母親は精神障害者で中学生の息子に支えられて生きています。萌名義で借りているアパートに住居を移し、生活の立て直しを図っていきます。紹介された時迷いはありました。子供の人生にも関わることになり、その重さを感じたからです。母親の息子のためにやり直したいというオーラに負けました。物を捨てられない彼女の引っ越しの際、大きな冷蔵庫はあきらめるように言うと、おとなしく感じていた息子から「自分たちの荷物を運んで何が悪い！」と電話口で言われて、（くそー誰が引っ越し手伝うか！）と思った私ですが、ワゴン車で到着したとき、マンションの下で青ざめた顔の彼女と息子大きい荷物を持って立っていた姿から、やり直すんだというオーラを感じ、結局、巨大な冷蔵庫（使用はできない）はいなほに運んだのでした。



木工班で作成している、ジオラマです。すごく綿密に作られています。製作者は疲れて？

2017年度工賃について

支払工賃 9,145,250 円
工賃支払対象者数 346 人
平均工賃 26,457 円
となりました。

2018 年度 あらたに送迎サービスを週三回実施していきます。就労定着支援も始まりました。対象者は現在 3 名です。



パレットの受注量は伸びていますが、検査ミス等課題も多いです。量が増えれば、在庫管理も必要になり、配送管理も新たな仕事。従来のやり方では、もうだめです。新しい体制作りが課題となる 2018 年度です。

萌の歴史3

戸塚に来たとき、いままでどおりパレットでやろうと思っていたが、受注先のめどがあったわけではない。関東地区のパレットをやっていると思われる企業100件にアンケートを送って、仕事先を見つけようとした。アンケートが返送されたのは、ごく数枚。こうして私たちの素人経営が始まったのだ。一番心強かったのは、金沢区に通っていた利用者全員が私たちについてきてくれたからだ。そこには、保護者達の理解があったと思う。利用者とも保護者とも、今より親密だった気がする。

パレットの仕事を探しながら、私たちは彼らに仕事を提供するため、なんでも仕事は請け負った。パレットと全く異業種のポスティング・施設外就労で、川崎まで靴のタグつけをしに通った。(この仕事は意外に皆楽しんでいた)パレットが仕事になったのは、8月に引っ越してから数か月後の12月だった。仕事提供に身のすくおもいで毎日過ごしたのだった。つづく



グループホーム独歩恒例焼き肉パーティー*
一人暮らしをしている利用者さんも参加して、楽しく夕食会を開きました。お肉たっぷり、参加者は美味しいと大満足でした。またやりましょう。



編集後記

生活支援・就労支援・自立支援は萌の三本柱であった。今はもうその言葉はどこでも聞こえる。問題は中身の問題になってきた。一人暮らしの支援、それももう国の政策にうたわれるようになってきた。萌独自のそれとは何か？が問われる。体調が悪い時、その病名を告げられても、辛さは取れない。食事作りを代ってやってくれたり、掃除を手伝ってくれたりすることで楽になり、辛さがやわらぐ。支援とはそういう物だと思う。知識があれば、やれることは増えるかもしれない。知識だけでも具体的に何かしない限り意味はない。一人暮らしの支援・・・携帯電話は24時間待機する。人は

365日24時間存在しているから。それが支援の第一歩。(所長)